

カンボジアの首都プノンペンにおける都市開発プロジェクトの現況

Study on Situation about urban development project in Phnom Penh, the Capital of Cambodia

藤澤忠盛¹⁾ 清水淳史²⁾

TADAMORI FUJISAWA¹⁾ ATSUSHI SHIMIZU²⁾

1) 昭和女子大学 環境デザイン学部 2) 昭和女子大学 国際文化研究所

Abstract : In Phnom Penh, capital investments from other countries have increased and development projects are underway in line with rapid post-independence population growth. While Cambodia was late in gaining independence among South-East Asian countries, its geographical characteristics have made it a target for investments from neighboring countries. This paper presents an overview of the development projects that have been

Key Word : Urban development, Donut phenomenon, Phnom Penh

actively promoted since the beginning of the 21st century. The findings of the demographics and eight major project surveys revealed a doughnut effect, with a declining population in the city center and a growing population in the suburbs. The results of this study provide insight into the future direction of urban planning in Phnom Penh, based on current development projects.

1. 研究の背景と目的

プノンペンの人口は、2019年時点で、2,281,951人¹⁾であり、JICAの報告によれば2035年には約2,868,000人²⁾に達すると予想されている。急速な人口増加の背景には、隣国のタイとベトナムという東南アジアの先進諸国に挟まれている地理的特徴に加えて、労働人口が全人口の約6割を占め、飛躍的な経済成長が見込まれていることが挙げられる。東南アジアの中でも、90年代という遅い時期にようやく国際社会に復帰し、2000年代以降は自国のみならず、各国の支援や経済合理性を追求した開発プロジェクトが盛んに推し進められている。本稿の目的は、プノンペンの各地で進む都市開発プロジェクトについて概観し、爆発的な人口増加や周辺状況と関連させて分析を試みることである。これまでの先行研究では、首都プノンペンにおける都市開発プロジェクトのみに焦点が当てられており、よりマクロな視点で、人口増加や周辺状況と合わせて論じたものは管見の限りない。

2. 調査方法と対象

本稿で取り上げる都市開発プロジェクトは、JICA³⁾および世界銀行⁴⁾の報告書をもとに、最新の情報を加えて整理している。人口統計については、計画省統計局による最新のデータを用いた。また、最後に現地を訪れた2019年当時筆者が見た状況も一部参考にしていく。対象となるプロジェクトは8つであり、うち7つはプノンペン州に位置している。残る一つは、プノンペン州の2つの区とカンダール州に跨がっている。

3. 主なプロジェクトの概要

インターネット調査によって各プロジェクトの最新情報を調べたところ、詳細な情報が把握できるプロジェクトは8つのうち4つであった。以下にその4つのプロジェクトについて、概要を示す。

Phnom Penh City Center (図表中1番)

この場所にはもともと、ボン・コックという湖があり、市内でも有名な観光地だった。数千人が居住し、観光業や漁業で生計を立てていたが、2007年にカンボジア政府が国内の不動産デベロッパーに土地の貸与という形で開発権譲渡した。翌年には埋め立てが始まり、当時の居住者たちは退去を余儀なくされている。プロジェクトのHPによれば、中央部はベルト状の緑地と公園に整備され、その周辺にオフィスや小売店、ホテル、居住エリアがあり、域内で生活が完結するように計画されていることが分かる。

Diamond City (図表中2番)

バサック川の人工島を中心に開発されたこのエリアは、1950年代に、当時、建築家兼建設省の大臣だった Vann Molyvann らによって進められた Bassac River Front Project の延長に位置付けられる。周辺には New Khmer Architecture と呼ばれる風土性を生かした建築物が多くあったものの、ほとんどが再開発によって取り壊されている。現在は、イオンモールをはじめ、大型の商業施設が立ち並び、外国人のみが利用できるカジノ施設の拡大が進んでいる。人工島内にはホテルなどの外国人向け施設が多いものの、西洋風に計画された通りや建物もあり、現地の人にとっては観光スポットになっている。

Camko City (図表中3番)

2005年に韓国会社が現地の建設会社を率いて開始した、プノンペン初の海外資本による都市開発プロジェクトである。高級住宅街の建設に向けてプノンペン市も協力していたが、2016年に韓国側の株主が配当に関する訴訟問題を起こした。当初は、西方に計画されていたイオンモール2号店の完成にあわせて、2018年までに6つの段階に分けて計画を進めるはずだったが、現時点で第1段階の計画がストップしている。

ING City (図表中8番)

プノンペン中心部から南に位置し、総面積が約2600ヘクタール、計画人口は20万人を越える、最も大規模な都市開発プロジェクトである。2022年にはイオンモールの3号店が建設予定で、2023年には新しい国際空港の運用が開始される。

その他のプロジェクトについては、JICAと世界銀行の資料にかかっている基本的な情報を参考にした。8つ全てのプロジェクトをマッピングした図を次ページに示す。

4. まとめ

プノンペンの人口は、この先15年間で約60万人程度増加する見込みである。一方の人口増加率は、全14区あるうちの中心市街地の4区(Doun Penh地区を除く)で減少している。町ごとにみても、減少しているのは中心市街地である5区にあるいずれかであり、郊外にある10の区では全ての町で人口が増加している。2008年の統計データでは、中心市街地でも人口減少率が3%を超える町は1つだったのに対し、2019年では5つの町でマイナス3%を超え、他の町でも減少の傾向が見られた。図の5~8番に示す、比較的大規模な都市開発プロジェクトが郊外に位置していることから、首都プノンペンでは人口の郊外移動が起きていることが明らかになった。

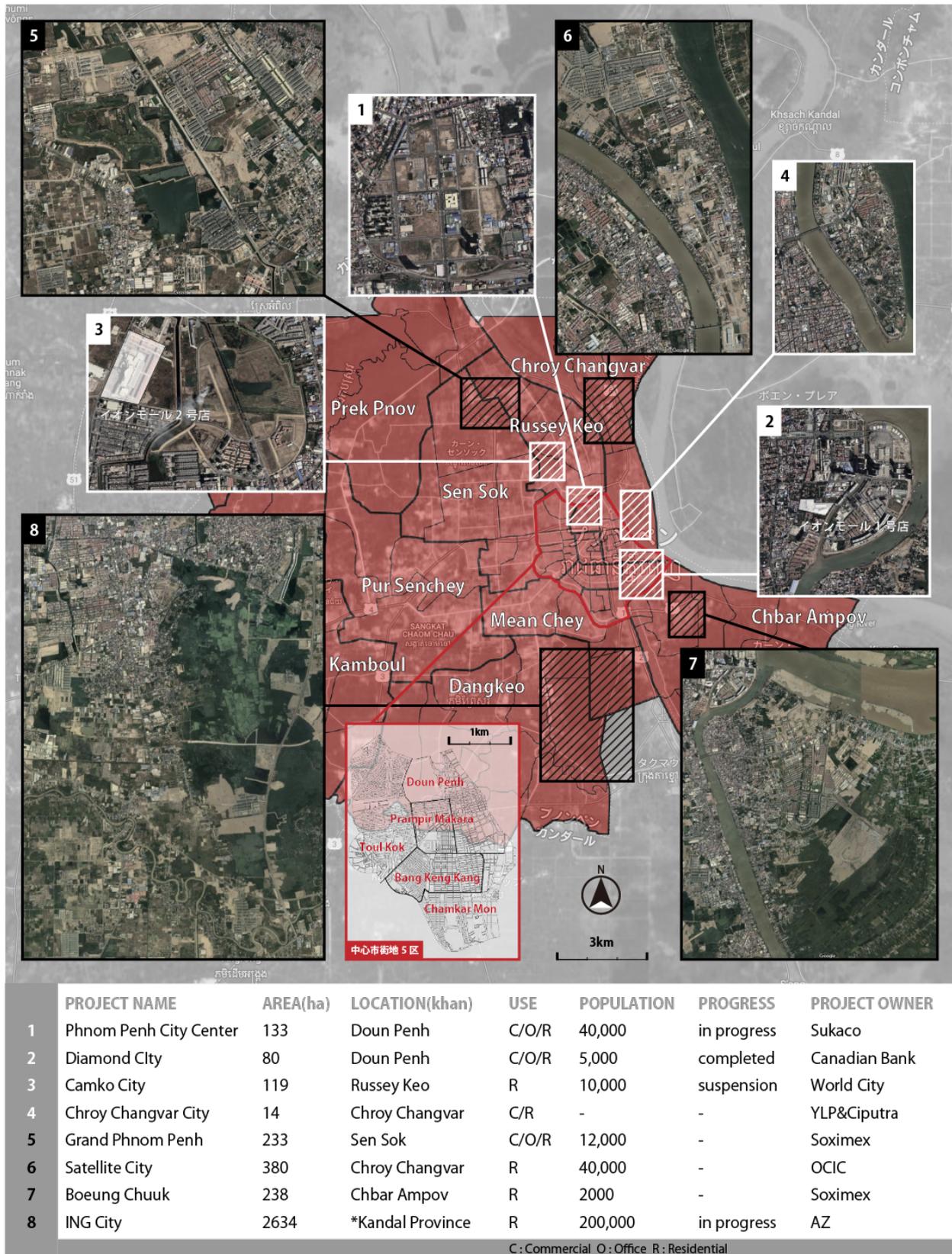


図 首都プノンペンにおける都市開発プロジェクトの概観及びその周辺状況 (赤いエリアがプノンペン市)

参考文献

- (1) National Institute of Statistics of Cambodia, 2019
- (2) The project for comprehensive urban transport plan in Phnom Penh, JICA, 2014
- (3) Urban development in Phnom Penh, World Bank, 2017

謝辞

本研究は慶応義塾大学潮田記念基金博士課程学生研究支援助成、昭和女子大学研究助成金、昭和女子大学プロジェクト予算より研究されています。本研究にあたりプノンペン都市計画局、王立プノンペン大学、ノートン大学の協力を感謝する。